

平成28年度知事と県民の意見交換会概要

テーマ：観光客を呼び込む鍵！「地域連携」による広域観光推進

日時：平成28年8月10日（水） 9：00～11：30

場所：大館樹海ドーム パークセンター

※意見交換に先立ち、同会場にて(一社)秋田犬ツーリズムの事業内容及び取組状況について聴講

(知事あいさつ)

今日のテーマは観光ということであるが、県北もようやく観光に目覚めたと感じているところである。今月、秋田犬ツーリズムの中田会長や市長等と台湾に訪問するが、実は、県南では、民間レベルの海外 PR というのは、例えば、角館、田沢湖の旅館の女将さんや観光関係の業者の皆さんが、台湾へ行って旅行社を回ったり、プロモーションをしたり、十数年前から普通にやってきたことだ。また、祭についても、県北にはいろいろな祭があるが、招待されるのは花輪の祭ぐらいで、秋田市においては、県北の祭は聞こえてこないが、県南の場合は、小さな町内単位、集落単位の祭まで宣伝に来ている。ある意味で観光は、学ぶより慣れる。乳頭温泉郷の女将さんたちは、韓国語を勉強し、中国語・タイ語・英語についても挨拶ぐらいはしようということで、取り組んでいるし、いろいろな WEB や様々なツールを使って一生懸命やっている。

ただ、観光というものは、現在、地方創生で全ての市町村が取り組んでいるが、非常に難しい。例えば、世界で一番の観光地だというフランス。あそこは、おもてなしで言えばゼロ以下マイナス。観光客がわんさかいるルーブル美術館やオルセー美術館に行くと、受付のおじさんは机の上に足をかけて、たばこを吸って、挨拶も無い。それでも人がいくのは、絶対的に価値のあるものがあるからである。そういう意味からすると、秋田であれば、仙北市の武家屋敷はある程度絶対的な価値があるものといえる。

しかし、そういうものが全てかということ、そうではない。自分たちがそれまで全く経験したことのない、風俗や暮らしだとかも、今は注目すべきもの。例えば、自然というものは、日本においては、北海道から九州まで有り、単にそれだけでは、全然魅力ではないが、その自然の中で営まれる生活、暮らしの様子、あるいは、昔からの伝統的なもの等を組み合わせることで魅力を高めることができる。地域の連携や、農業的なもの、商業的なもの、文化的なものとの連携の巧みさで、小さな特色を大きく見せ、地域の発進力が変わってくる。絶対的な価値がない場合は、こうした連携が必要。

海外からお客さんを呼ぶときには、その国の風習、特徴、その国の人がどういうものを好むのかを理解することが重要。例えば、タイの VIP のお客様には、豪勢な農家民宿が今非常に喜ばれている。豪勢な農家民宿には大きな仏間があり、ものすごい仏壇がある。敬虔な仏教徒であるタイ人は、これを見つけて、このような仏壇を持つ日本人とは話が通じると感じ、気に入ったようである。全く意識もしなかったものが喜ばれたり、どこにネタが転がっているか分からない。

県でも今年は秋田犬に関連する事業をたくさん行っていく。今日は、こうした事業を具体的に進めていくときに役立てていけるよう、今後の夢や将来どういうことをしたいかと

いうことなどを中心に、お聞かせ願いたいと思う。

【参加者自己紹介】

(A氏)

秋田銀行から出向し、この4月から秋田犬ツーリズムの事務局長を務めている。秋田犬ツーリズムの業務では、対外的なプロモーション事業を中心に担当している。観光業に長く携わってきたわけではないが、勉強をしながら外部専門家や地域の方々と協力しながら取り組んでいきたい。

(B氏)

飲食店等を経営し、きりたんぼまつりの前実行委員長を務めた他、現在は、日景温泉の再生にも取り組んでいる。

(C氏)

大館市中央商店街の女子会、なでしこの会に所属している。市内で美容室、ブライダル業を営んでいる。大館市中央商店街の活性化を目指してなでしこの会を結成し、外国人旅行者向けの和文化体験を企画している他、地産地消の商品として「やまいもコロッケ」などの開発にも取り組んでいる。

(D氏)

グラフィックデザイナーとして活動している。北海道で生まれ、大学卒業までを北海道で過ごした。東京のデザイン事務所に就職し、4年前、結婚を機に夫の故郷である大館市に移り住んだ。現在は、スリーペアデザインという個人事務所を立ち上げ、市内の観光ポスターやパンフレット等を作成している。県外出身であるという視点を活かして、地域の魅力を掘り起こし、わかりやすく情報発信していきたいと考えている。

(E氏)

大学進学を機に関東で暮らしていたが、Aターンしてきた。地域の活性化に貢献したいと考え、康楽館で勤務している。康楽館でのインバウンド対応にも携わっており、現在は、台湾からのお客様などに対する翻訳サービス機械を活用した芝居観劇の対応も行っている。

(F氏)

北秋田市観光物産協会で勤務している。以前は、秋田市と大館市でも長く旅行業に携わっていた。鷹ノ巣駅隣接の観光案内所で観光案内を行っている。鷹ノ巣駅は、奥羽線、内陸線、大館能代空港の3つの交通を利用する旅行者の集まる場所であり、個々に合わせた提案をしている。また、北東北山岳ガイド協会に所属し、登山ガイドも行っている。観光案内所への問い合わせが最も多い森吉山を初め、田代岳や北東北の山のガイドをしている。その他、SNSを利用したあらゆる観光情報の発信や、地方公共団体が企画するモニターツアー対応等にも取り組んでいる。

(G氏)

秋田内陸縦貫鉄道株式会社の運輸部運輸営業課で勤務している。入社は3年前であるが、過去10年ほど旅行業界に従事している。当初は、鷹ノ巣駅の旅行センターで旅行手配等

を行っており、現在は、渉外係として営業を担当している。また、北京での滞在経験があり、当社の主たる海外顧客である台湾の旅行者へのセールスや、お越しいただいたお客様に対する簡単な通訳等も行っている。

(H氏)

秋田市出身。北秋田市には、5年前に移住してきて、空き家となっていた祖父の家で妻と娘二人と暮らしている。現在は、森吉山を中心とした観光振興に力を入れている。北秋田市、森吉山は、子供の頃から土日に遊びに行くところで、その当時間もスキー場やマタギの里が押し出されていたが、いいところなのにお客さんが少ないなと感じていた。いずれ観光に携わりたいと考えていたところ、5年前の東日本大震災をきっかけとして北秋田市に移り住んできた。北秋田市は、これまで観光で商売をしている人が少なかったところであるが、資源はいっぱいある。先日奥森吉の森吉野生鳥獣センターで開いた「こうもり観察会」では、絶滅危惧種のこうもりがたくさん見られ、マニアの方などたくさんのお客さんが来ていた。また、今の時期は、東京や京都に卸すと2、3千円で、実際に目の前に出るときには5千円くらいになるような鮎を阿仁川に釣りに来る方もいる。星空も、森吉山が東日本で一番きれいに見えるということで、大きいカメラを持ったマニアの方がいらしている。ただ、森吉山を広めてくださいというと、「ここは俺だけの場所だから教えたくない」と言われ、なかなか難しい。これから自分たちで情報発信をしていかなければいけないなと感じているところ。

2年前に銃の狩猟の免許も取ってマタギの見習いもしており、県と市のマタギ体験ツアーについても3年間中心として取り組んでいる。

また、「これを聞けば北秋田の最新の情報が分かる」という情報共有のツールが必要であると考えており、コミュニティFMの開局に向けた取組も行っている。

【意見交換】

(H氏)

地域連携で外国人を呼び込むために、まず、私は、高級路線とは反対の低価格路線を進めたいと考えている。仙北市の武家屋敷等であれば高級路線でも良いが、北秋田市のような山や農家はあまりそぐわないと感じている。また、長期滞在してもらうためには宿泊料も重要となってくるが、北秋田市では素泊まりで一泊3～4千円のところが多く連泊も難しい。今は、私の家をリフォームし、一泊2千円台のゲストハウスを整備しており、長期滞在できる場所を北秋田市で作っていきたいと考えている。

また、海外からの東北への旅行者は、世界遺産である白神山地・平泉に行くことが多く、その中間地点として森吉山などに訪れている。これまでは、鹿角の方に抜けていくことが多かったが、世界遺産を通して、北秋田市や角館とも連携しながらこれをもう少し内陸側に拡大するルートを作り外国人の方に見てもらいたい。

DMO 全体の話では、DMO 以前に TMO というものがあり、DMO が観光協会等の主体であるのに対し、TMO は商工会が主体であったが、失敗をしている。こうした失敗事例も参考にして、今後 DMO の事業を進めていただきたいと考えている。

(知事)

インバウンドといっても高級路線でいくのか、それとも中間層を狙うのか、どういう価格帯にするかは非常に重要だと思う。例えば、ドイツのバイエルン州にあるロマンティック街道などでは、人によるおもてなしがなく、単に部屋だけを貸す施設がある。自炊し、

洗濯も自分ですが、価格は安い。また、アラスカにも、貸し出す建物はすごく立派であるが全部自炊というものがある。こうした、人のサービスは無いが、代わりにコストがかからない、都市部の民泊にも通じるような施設が意外とヨーロッパ人やアメリカ人に好まれている。また、こうした低価格の宿泊施設を好む旅行者は長期滞在するという利点もある。日本では、このような宿泊施設のバリエーションが少ないため、Hさんの提案するいかにコストを安く滞在させるかという点は重要だと思われる。

(G氏)

地域連携をしていく意義としては、地域内の観光資源の格差や魅力の均一的な底上げに意識が向くことにもあると考えている。当社で実施しているおもてなし研修等でも他者との競争意識をもってもらい、また、自社に帰ってからのフィードバックも重要視して進めている。

台湾等の外国人観光客の受入意識の醸成については、団体旅行であれば通訳が同行している場合が多いため言葉が分からなくても良いが、旅行者が個人であれば、指さし会話集等が重要になってくる。また、「んだ」、「んでね」、「うめ」、「へばな」等の簡単な秋田弁を教えてあげることも、簡単な言葉でも通じるんだな、という安心感に繋がり、コミュニケーションに役立つと思う。言葉が分からないということで消極的にならないことも重要だと思う。当社の観光アテンダントも、言葉は話せないがボードなどを使用した外国人旅行者とのふれあいを大切にしている。また、阿仁合のこぐま亭では、メニューに中国語表記を加える取組も行っている。こうした取組を広域的に進めていければと思う。

(知事)

方言はおもしろい。外国人に面白い秋田弁と教えたりするとみんな喜んで話す。

また、我々が海外に行ったことを考えると、必要な言葉は簡単な挨拶ぐらいで、そんなにたくさんは知らない。あとは、レストランに行ったとき、日本語で書いたメニューがあればほっとする。日本では、最低でも英語、中国語、韓国語は必要。日本のメニューの名前はそんなに多くないし、どこかで1回作れば、あとはどの店でも使える。ぜひ、飲食店組合に頼んでみるなどしてやってほしい。問題というのは、我々が外国に行ったときの不安を裏返して考えていくと解決してくる。まさに、個別では難しいけれども、連携して出来ることとして取り組んでほしい。

(F氏)

この地域では、受入側の気持ちを変えていくことが大切だと思う。自分の経験でも、せっかく好きで行った場所なのに、地元の人に「何も無い、つまらないところによく来たね」と言われて気持ちが沈んだことがある。これはこの地域でも同じことが言えると思う。また、あたたかいおもてなしを受けた乳頭温泉などと比較して、この県北地域は、期待外れだったという声も聞かれ、おもてなしの重要性を感じている。

また、Wi-Fiの早急な設置も必要だと感じている。北秋田は、駅や観光案内所にもWi-Fiが無い。台湾や韓国から来たお客様は、感動したり、楽しいなと感じたことをすぐにその場で発信したいと思っているのに、この地域ではそれが出来ず、いつもとても残念に思っている。海外のお客様は、仲良くなるとSNSで自分から友達になろうとしてくれたり、観光地の発信もしてくれるので、早急な整備が必要だと思う。

(知事)

秋田で国文祭があったときに、秋田の駅でお客さんがタクシーに乗り、「どこかいいところないですか」と聞いたら、「どごもねっす」と答えたという話がある。悪い気持ちではないけれども、遠慮するような、自分を下に見る気持ちが原因になっている。乳頭温泉郷も今から20年くらい前はそうだった。外の人との接触を増やし、慣れることが必要。まずは、評判が悪くてもどんどんお客さんに来てもらってチャレンジしてほしい。

Wi-Fiについては、県でも補助制度がある。ただ、観光協会の会長や、観光の上に立つ人がWi-Fiを知らない場合もあり、補助があっても利用されない現状がある。Wi-Fiが整備されているのは当たり前のこととして、地域を刺激しどんどん県の制度も活用して行ってほしい。

(E氏)

小坂町ではWi-Fiが通じたところ。海外から来た方が、早速Wi-Fiを使ってポケモンGOをやったり、写真を撮って「すごくいい町だよ」というような好意的な意見を発信してくれているのを確認している。

康楽館では、おもてなしを大事にし、お客様に楽しんでいただけるように自分を下げずに、「いいところですよ」と強く言うようにしているが、他の周囲の施設では、ホテルで日中に対応する職員が誰も居なかったり、商店街で営業中の看板が出ているのにも拘わらず、入ると「今日は休みだ」と怒鳴られることなどもあり、お客様もそういう経験をしていると思うと残念な気持ちになる。こうしたモラルの底上げしていかなければならないと思う。

(知事)

康楽館は、舞台を使える空いている時間はあるのか。県内には、鳥海歌舞伎というものがあるが、これはすごく面白い。ただ、鳥海には場所がないから、コミュニティセンターのようなところで開かれていて、味が無い。こうしたものを康楽館でやってみるのもいいと思う。他にも県内には多くの民俗芸能があり、康楽館でやることでその地域の人が足を運ぶきっかけにもなると思う。康楽館では、秋田のものはあまり関係ないのか。

(E氏)

常に貸し出しは行っているが、町内でとどまっているのが現状。今、利用されているのは、成人式や民間の発表会などで、どれも小坂町や町内の方が主導しているもの。

(知事)

重要無形文化財のようなものであれば、ある程度行政も応援することができる。今は、県内の盛り上がりは康楽館に向いていない。やっぱり伝統的なものは康楽館でやれば雰囲気が出ると思う。予算的に町で実施するのが難しければ、県で援助していくことも出来るから、そういったことを考えてやってみるのも面白いと思う。

(D氏)

デザインを通して今後やってみたいことは、お土産のパッケージデザイン等のバリエーションを増やしていくこと。20代の頃、旅行が好きで、お土産店を見たり、買ったりすることが多かったが、買いたいものは同世代の友達にあげるようなものがほとんどだった。中身の数自体は多くなくてもいいが、パッケージがかわいかったり、ちょっといい紙を使っていたり、缶に入っていたり、かわいいもので、食べ終わった後も使えるようなものを

いいなと感じ選んでいた。ただ、そうしたものは予算がそれなりにかかるため、今は、パッケージデザインの依頼を受けて、提案しても予算的に難しいと言われることがほとんど。こうした面を変えていきたい。SNS の話も出たが、やはりかわいいものであれば、気持ちも高まり、投稿や発信にも結びつくと思う。

パッケージデザインに携わった、大館の新銘菓「えだまめモナカ」を作った「倶楽部スイーツ」という団体についても紹介したい。メンバーは、大館市内の古くからあるお菓子業者7社の若手後継者で、メンバー同士の仲がとても良い。同業者なので、ライバルになるような間柄だと思っていたが、会社の垣根を越えてみんなでいいものを作ろう、大館の名菓を作ろうというコンセプトで協力しながら取り組んでいる。こうした大館全体で魅力の底上げをしようという取組は、DMOにも繋がる考え方だと思う。

今後は、DMOが進められていく中で、どういったお客様が来るかもだんだんと分かってくると思うので、ターゲットに合わせたものも作っていきたい。

(知事)

鉾山が栄えるなど、豊かなところは昔から和菓子が美味しい。大館の煉屋のバナナ、明けがらすは小さい頃から食べていた。お菓子も一つの地域のブランド。観光の目玉にもなる。お土産は、買いやすさ、配りやすさも重要。笹かまが売れるのは、みんなに配れるからで、配れないお菓子は売れない。

えだまめの商品は他にもある。徹底してえだまめを全面的に押し出して欲しい。5年、10年かけて定着させていくことで、お菓子から地域の知名度を上げることもできる。あとは、登録商標をしっかりと取って模倣を防ぐことことも重要。

羽後町には、櫻山というラスクの店があり、東京の三越や伊勢丹でよく売れている。パッケージがものすごい。後ろに小さく日本語の記載があるぐらいで、誰も羽後町で作ったとは思わないような、どちらかというところ六本木や原宿のような都会的な雰囲気、本当によく売れている。

えだまめも今後ますます増えてくるから、うまく使ってやってほしい。

(C氏)

ブライダル業を営んでいるが、少子化の進行により結婚式等が減ってきており、何か業務に関連づけて新たな事業が出来ないか考えていたところ、福原市長が交流人口の拡大を目指し台湾などに出向いていることを知った。そこで、外国人観光客に向け、着物を着用して、気軽に日本文化に触れられる体験型の観光を考案した。すぐに行動に移そうと考え、受入体制を整えるとともに、パンフレットを作成したところ。まだ、実績はないが、利用してもらえるよう、価格面等で検討を重ねたり、また、着物を想定して始めたものだったが、夏場には、浴衣を取り入れていくことなども考えているところ。

(知事)

外国人は、意外と日本の着物に興味がある。今年の竿燈も浴衣の外国人が多く見られた。また、男性には侍姿が人気で、刀をさすのがヨーロッパ人などに最高に喜ばれる。こうしたものが気楽に楽しめるのは、商売になると思う。撮った写真をその場で現像して渡すようなこともできれば良い。

(B氏)

食と温泉が、非常に重要なツールであると考え、日景温泉の復活に取り組んでいる。

日景温泉は今年123年目になり、大館で唯一の混浴風呂となっているが、混浴風呂について、検討していただきたい。現在、経営者が変わったことで、温泉利用の許認可が新規扱いになるため混浴が認められなくなると言われている。調べたところ、「公衆浴場法」、「旅館業法」のどちらにも混浴を禁止する文言はないが、厚労省の指導指針として2つの法の衛生等管理要領が出ており、共同浴室には「おおむね10歳以上の男女を混浴させないこと」と明記している他、公衆浴場については、都道府県条例で混浴を禁止する文言が存在する。年齢については、「6歳以上の男女」とする県、「12歳以上の男女」とする県もあり、栃木県や群馬県のような温泉県では、「利用形態から風紀上支障がないと認められる場合にはこの限りでない」とゆるやかにして付記している県もある。120年続いた伝統ある温泉が経営者変更という理由で今まで通りの営業が出来ないのは大変おかしな話だと思っている。今後の秋田の温泉経営継続のため、混浴の新設は認められないが、既存施設の継続利用や同敷地内への移設については認める等、規定の改正を審議してほしい。また、再開の遅れとなっている要因がある。昨年、県の依頼により「土石流発生地区です」と記載した大きな看板を日景温泉の敷地に設置した。その後、今年に入って、森林伐採業者から木を切らせてくださいと話があったので、山の奥の方を切るものだと思っていたら、日景温泉の取水口周辺が丸裸にされ、これにより、現在は、雨が降ると土が取水口に流れ込み取水が出来ない状態となっている。このことについて、関連機関に問い合わせているが、調整がとれておらず、オープンが難しい状況。今は、ひとつひとつ解決しながら進めているところ。

2点目として、ふるさと納税の活用をお願いしたいと考えている。寄付金について、平成27年度の秋田県の状況は、件数で27位、金額では33位となっている。これに対し、山形県では、年間139億円で2位となっており、県をあげてふるさと納税を進めている。生産者と消費者をつなぎ、地域商品を売り込むためには、ふるさと納税が有効であると考えている。ぜひ、県一丸となって推進して欲しい。

3点目として、秋田犬ツーリズムの方向性について、全国どこでもインバウンドの強化にとりくんでいる今は、情報の発信量や太さが重要だと考えている。2年前に、ニューヨークのセントラルパークに行った際に、現地の人に尋ねたところハチ公を知っており驚いた。映画の影響で知っているとのことだったが、セントラルパークにもアラスカでジフテリアが発生した際に、犬ぞりで血清を運んだ伝説のバルト犬という英雄の銅像があるということを知った。そして、ハチ公も英雄であるなら、セントラルパークに銅像を設置したらいいのではないかと提案された。セントラルパークは、年間3,500万人が訪れる場所であり、また、セントラルパークにあるものは子どもたちの教育の教材として使用されるいろいろな波及効果があると思う。国連の明石さんの影響力もあると思うし、思い切った方法で発信していくことも考えていったらいいと思う。

また、おもてなしのサービスを向上させていく上では、競争原理をはたらかせるべきだと思う。青森県で実施されているような、お客様に複数の施設からおもてなしの良かった施設を選んでいただき、選んでいただいたお客様の中から抽選で商品をあげるような取組も効果的だと思う。

4点目として、秋田の食育を進めていきたい。近年では、地域の人が、例えば、大館で言えば比内地鶏など、地域のもを食べたことがないという実情もある。年に一度でも子どもたちに食べてもらうことで、将来、外に出たときにも語ってもらうことができると思う。

5点目として、地域連携を行うための経済団体の組織運営について、商工会と商工会議所が一枚岩になっていないことが問題だと感じている。各種のイベント等でも、イベント

のための団体ではないとして協力が得られない場合もある。こうした状況を打開していくためには、商工会と商工会議所の合併も必要だと思っている。

(知事)

まず、日景温泉については、調べてみる必要があるが、「6歳以上」、「12歳以上」、また、栃木県や群馬県のように「利用形態から風紀上支障が無いと認められる場合にはこの限りでは無い」といった規定はどういった理屈づけなのか確認する必要がある。また、県の公衆浴場施行条例上では、「この条例施行の際、現に許可を受けて浴場業を営んでいる者は、従前の規定による」とされているが、これが、新規に承継する場合にも読み替えられるのか、法的解釈を確認しなければならない。県の条例に新たに許可をする規定を付加した場合に、拡大解釈により全く趣旨と関係のない浴場ができることも問題なので難しいことだが、より詳細に他県の例も調査し、法律的に正しい解釈を調べる。

ふるさと納税については、かなりのところで廃止論も出ていて難しいところ。本来の、自分のふるさとに寄付をするという主旨から外れ、返礼品を目的としたものとなり、既に、総務省から高額な返礼品は控えるよう通知がでていているところ。経済論理からも、全国で見ると損をしている。現に制度があるので、うまく利用するのは良いが、今後制限されたときに困るものでもある。また、その自治体によってもふるさと納税のとらえ方が異なり、非常に難しいところである。

秋田犬を活用した情報発信については、東南アジアや中国系はまだ良いが、欧米人に対しては、あまり秋田犬を酷使すると動物虐待だと捉えられる可能性もある。そこは慎重にやらないといけないし、非常に難しいがうまくやってほしい。

食育については、そのとおり。どんどんやってほしい。

また、商工会と商工会議所については、全く別の法律に基づくもので合併はできない。本部や連合会レベルでの連携をしっかりとやって、いろいろな面で協力できるようにやってみてほしい。県内の他の地区でもそうした連携を図っているところがある。

(A氏)

今日は、いろいろな考えについて聞かせてもらったので、今後秋田犬ツーリズムで連携させていただきたいなと思ったことについてお話しする。

提案のあった低価格のゲストハウスについて、秋田犬ツーリズムでも、地域内の宿泊施設については、老朽化などを問題と考えていたところだったので、宿泊施設のバリエーションが増えることはありがたいし、協力できることがあればやっていきたい。また、イベントの周知についての悩み、地域の受入意識など、共通の問題もあるため課題と捉え協力しながら取り組んでいきたい。情報発信の仕方については、ニューヨークの話も出たが、こちらでもリチャード・ギアさんと何か出来ないかなど考えているところ。いろいろ今後ともよろしく願います。

(知事)

白熱した議論であった。課題はいくつもあるが1つずつクリアしていく必要がある。ただ、自分たちがいいと思ったものが、必ずしも相手に受け入れられるわけではないから、フィードバックをして軌道修正をしていくことも大切。

先ほども話したが、ここ数年県北の観光は活発化している。人がたくさん来るということはそれだけ情報発信もできる。まずは、きりたんぽなどを大いに発信しながら、他の情報も加えていき、今度は、その情報によって訪れてもらうことが必要。その繰り返しだと

思う。また、情報をインプットしたり、フィードバックしていく上での連携というのも重要になってくる。

交流人口の拡大に本格的に取り組み始めたということで、今後は、北海道、青森との連携、また、内陸線を通じた仙北市、横手市との連携、もう一つは、能代市の五能線からの誘客をどうするかなども考えてもらいたい。観光では、我々が海外に行くときも同じことだが、短い時間でいろいろなところに行きたい。二次交通も含めてバリエーションを作り、いかに効率よく、そのルート上のサービスを確保するかということにつけるかと思う。今日は、本当にいろいろな面で勉強をすることができ、感謝申し上げます。

(終了)